

学校の帰り道

彼女は強引に
手を引っ張り

僕をどこかへ
連れて行こうとした

僕は不思議な少女に
出会った

連れてこられた先は
神社だった

って
こんなところに
神社なんてあったっけ？

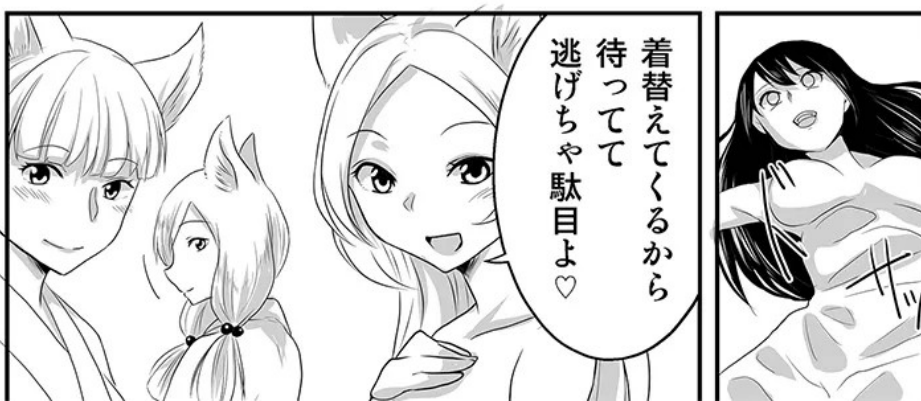
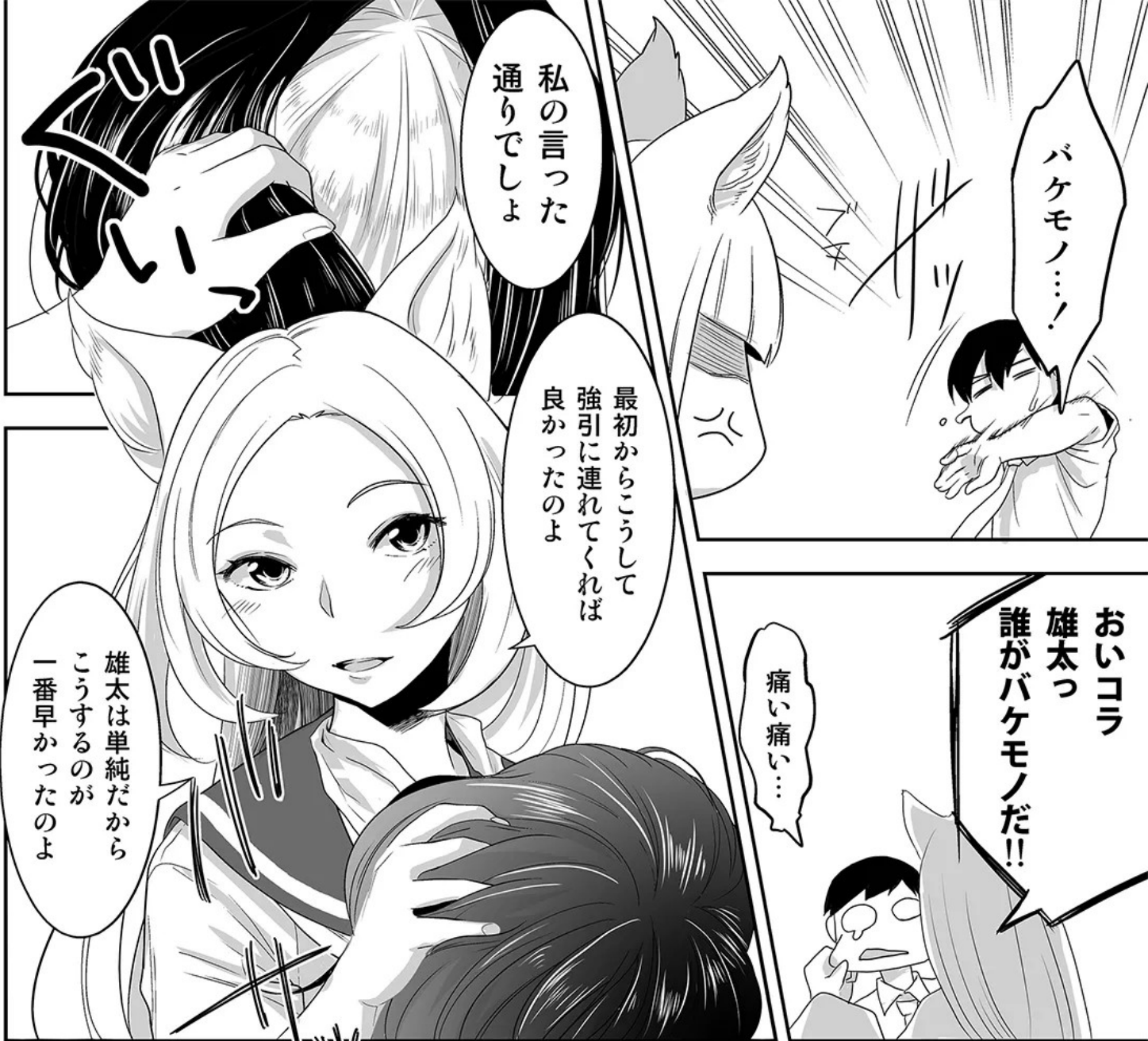
雄太！

良く来たね
雄太

ようこそ
浅国神社へ

扉を開けると
そこは外の世界とは
別世界だった

建物の大きさより
もっと広く
まるでひとつの
街のようだった





私たちはここ
浅国神社を護る巫女…

代々何百年という
長い年月護り続けてきました…

ですが
徐々に民の心は
この神社から離れ
存在自体も忘れられる
始末…

いつからか
私たち子孫が生まれなく
なっていました…

当然です…
民から忘れられた
神社など消えて
しまつて当然…

ですが私たちは
どうしても諦めることが
出来ません！

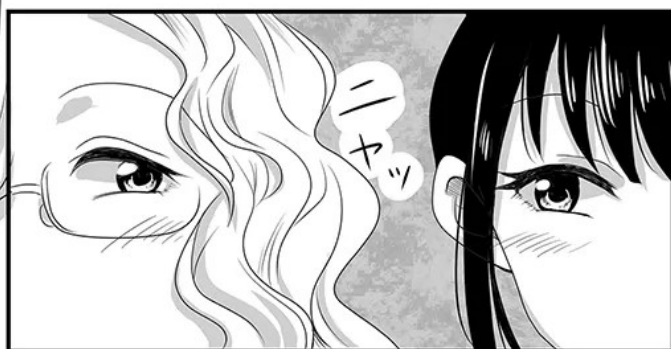
お願いします
雄太くんの精子を私たちに
ください!!

私たちを助けると思つて
どうか…お願いします!!

ちょっと待つて
三人とも…

急に土下座
されても困るよ！

ナニジ…







雄太
お願い！

雄太
やるよね！



雄太が困って
いるじゃない

なんてはしたない



ストップ！



ここは神聖な場所なのよ

二人ともやめなさい！



ごめんね雄太
言わせた感じに
なっちゃって…



はよ



すごく嬉しい！

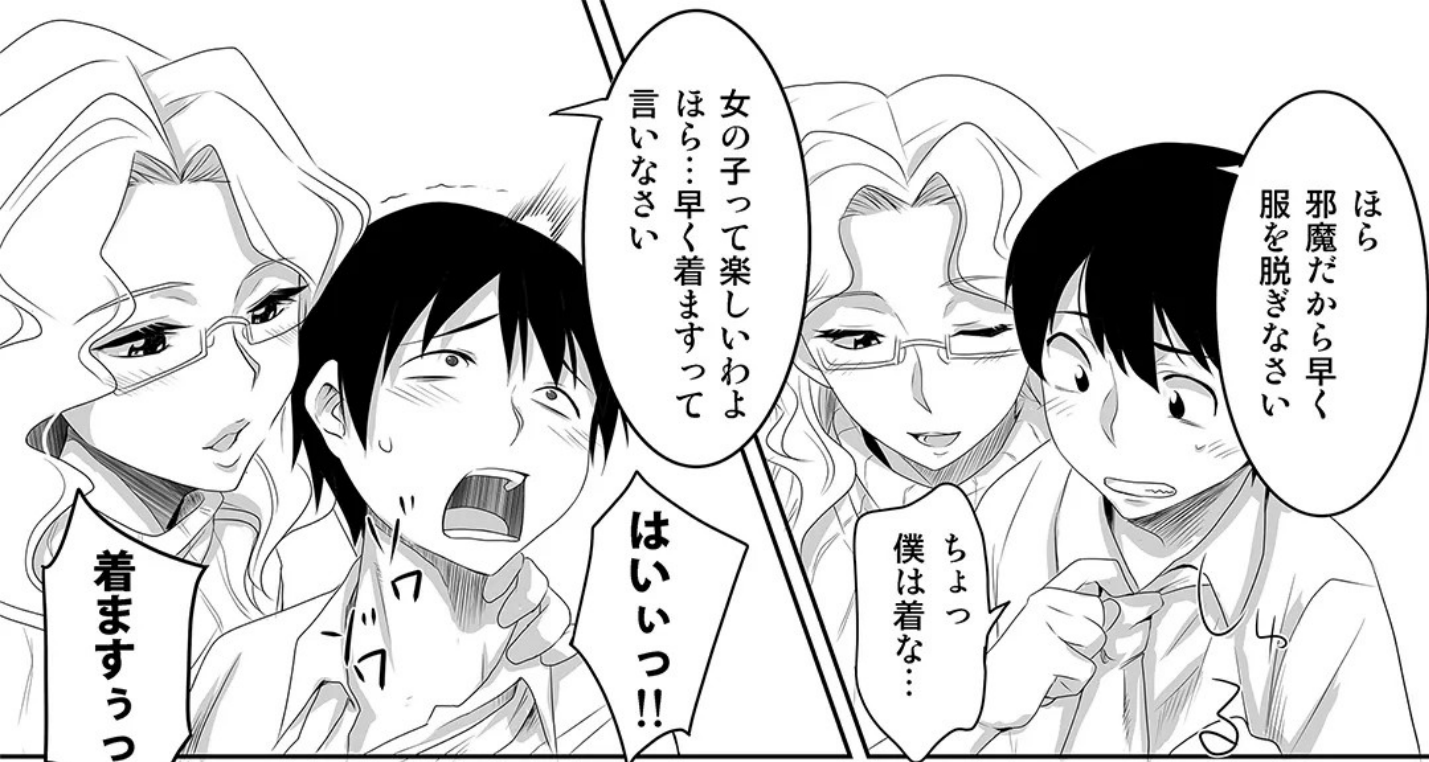
でも…
ありがとう

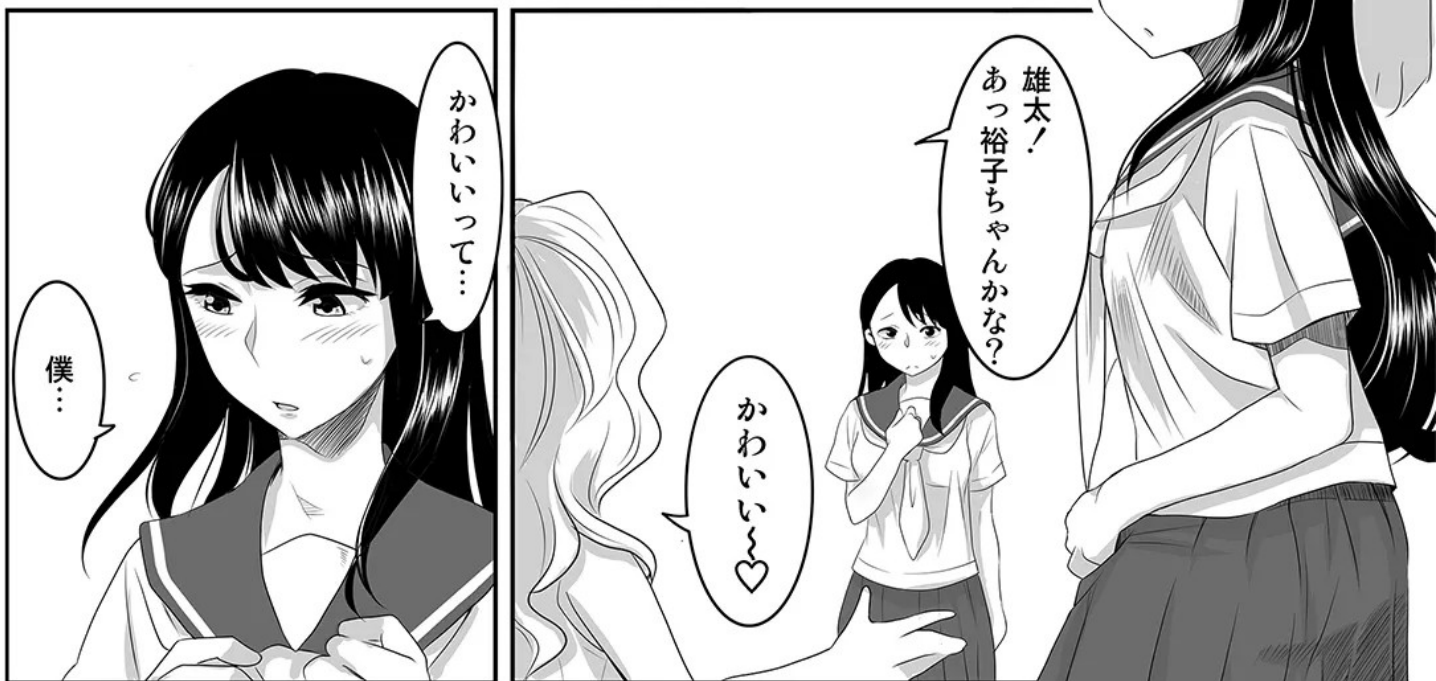
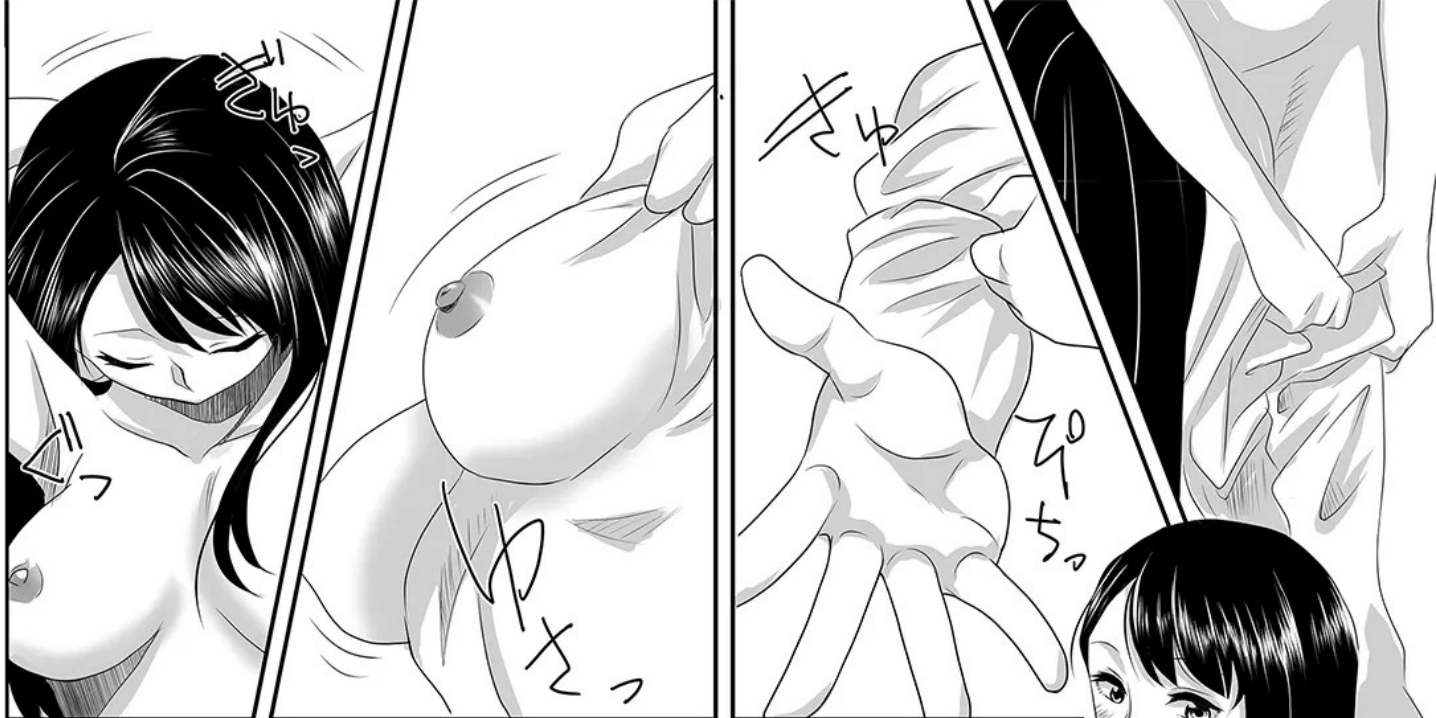


先生と…羽岡さんの
ダブル攻撃…

すごかった…







翌日

はっ
はじめまして…

稲葉 有栖 ありす
と申します…

ドキ
ドキ

本日から
新しい仲間が
増えました

転校生を
紹介するわ

うお~~~~!!
美少女だ!!

じ…
じ…

すげえ!!
このクラスにも
やっと癒やしが来たぞ!!



よろしくね
有栖ちゃん♡



かわいい子の隣なんて
凄く楽しくなりそう

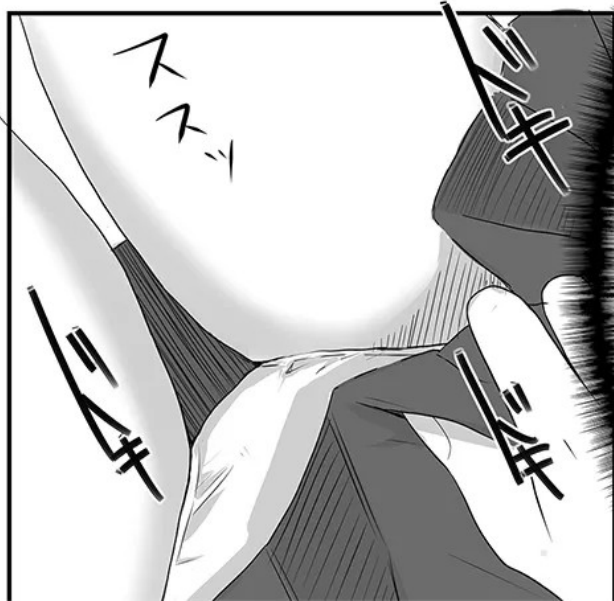
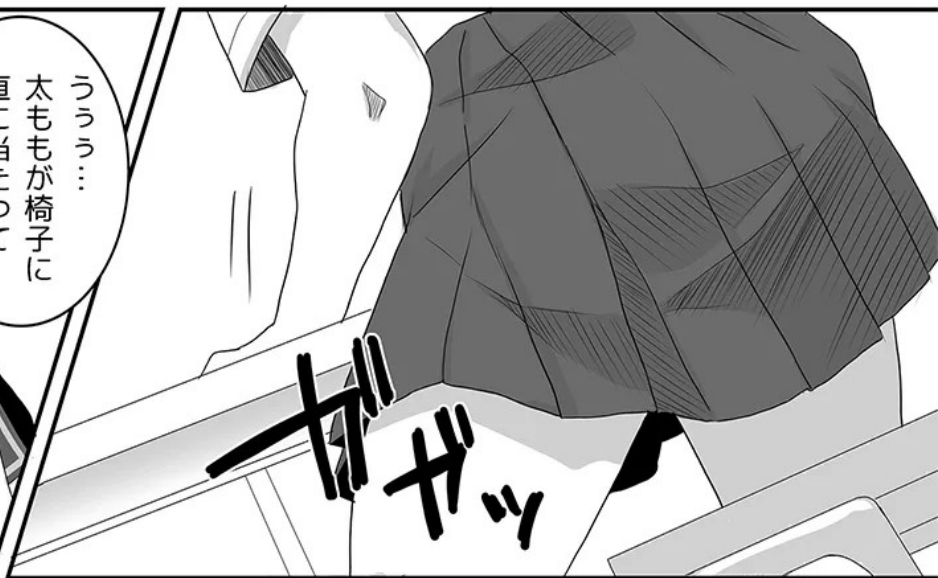


有栖ちゃん
私の隣だね



スカートが短いから
尚更だ…

ううう…
太ももが椅子に
直に当たって
変な感じ…



真っ白でシミ一つ無い…
これが僕の脚なんだ…

って言うか…ホント
キレイな脚だな…



そう考えると
変に意識しちゃう…

女の子の下着穿いてると
自分は男の子じゃないって
強烈に認識させられる…



ち○ち○が無い…

本当に女の子なんだ…
僕…



一番後ろの席だし…

キゅん…

誰も見てないよね…

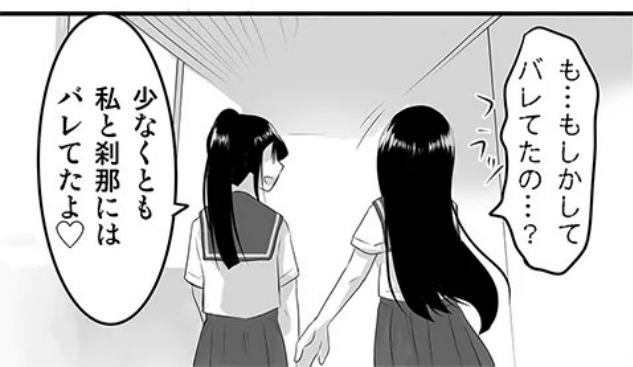
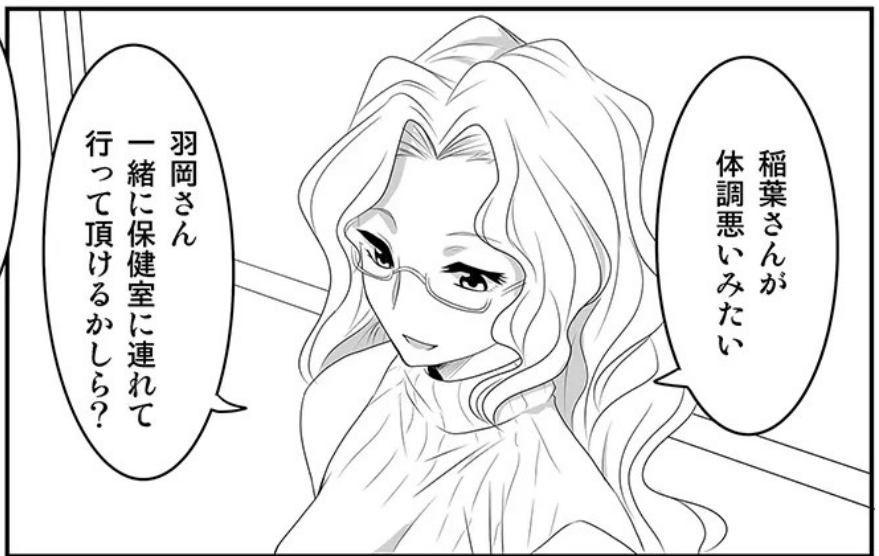


パンツが…
僕のアソコに
吸い付いている感じ…

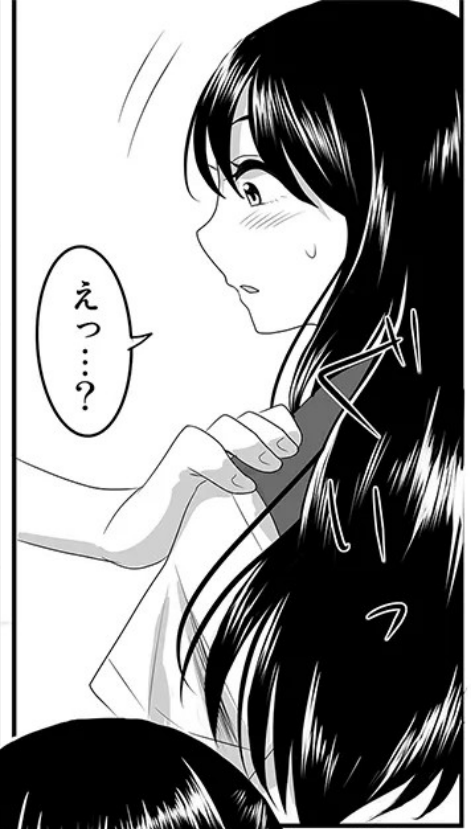
締め付けられている
感じがしてドキドキ
しちゃう…

どうしよう…
妄想が止まらなく
なっちゃった…

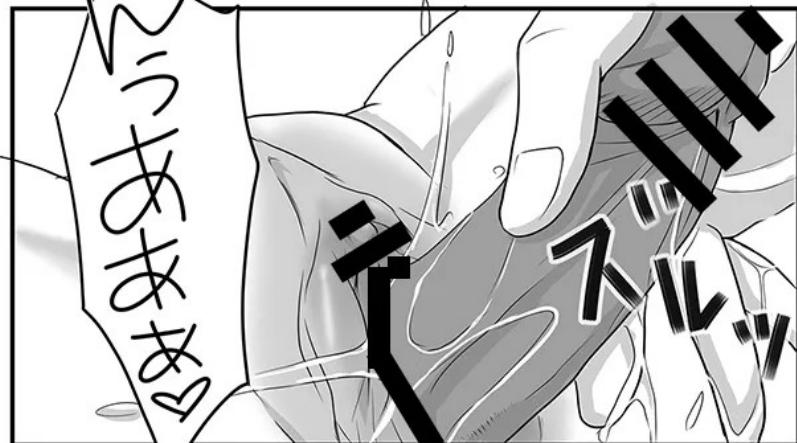












でもね雄太

この「神器」の
すごい所はこれだけじゃ
ないんだよ♡



なんか
ち○ち○触られた
時…

今まで感じたことが
ないくらい
気持ちよかった…



え…？
あそこから
ち○ち○が出てきた…？



男の子と女の子の快感
両方味わえちゃうんだよ♡

どう？
いつもの倍の
快感は♪

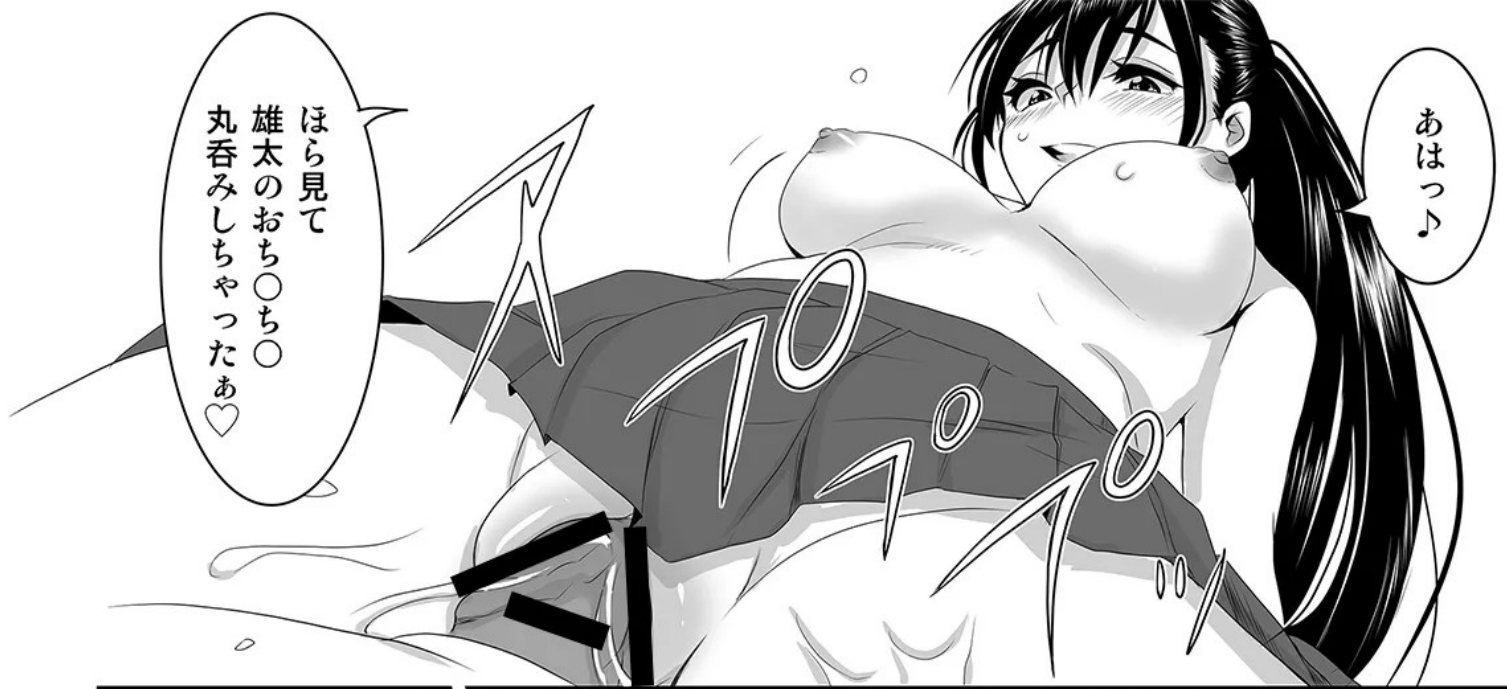
ば…倍？

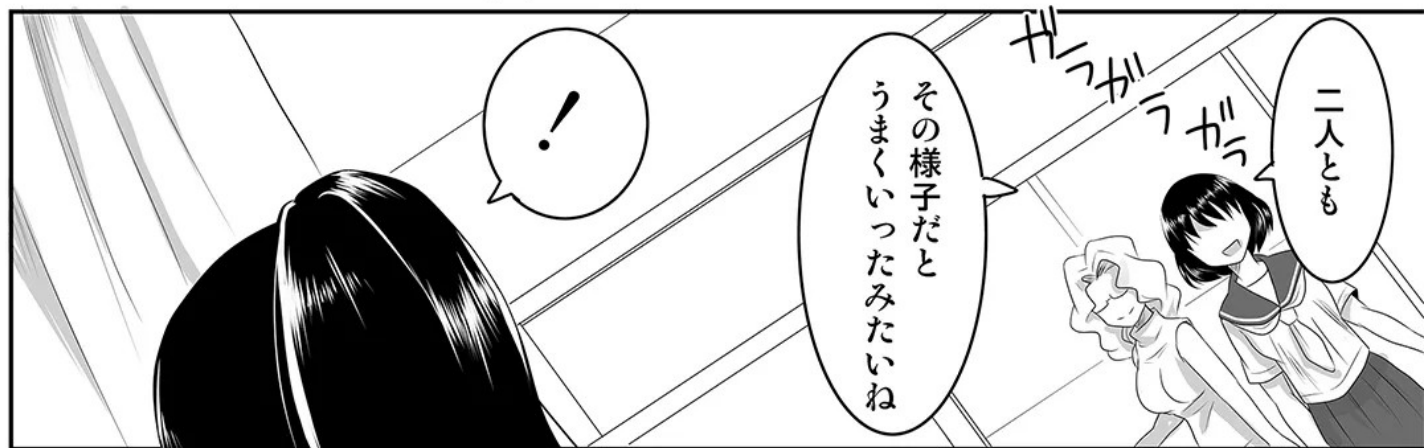
倍なんてっ…
もん…じゃ♡



これヤバイでしょ♡



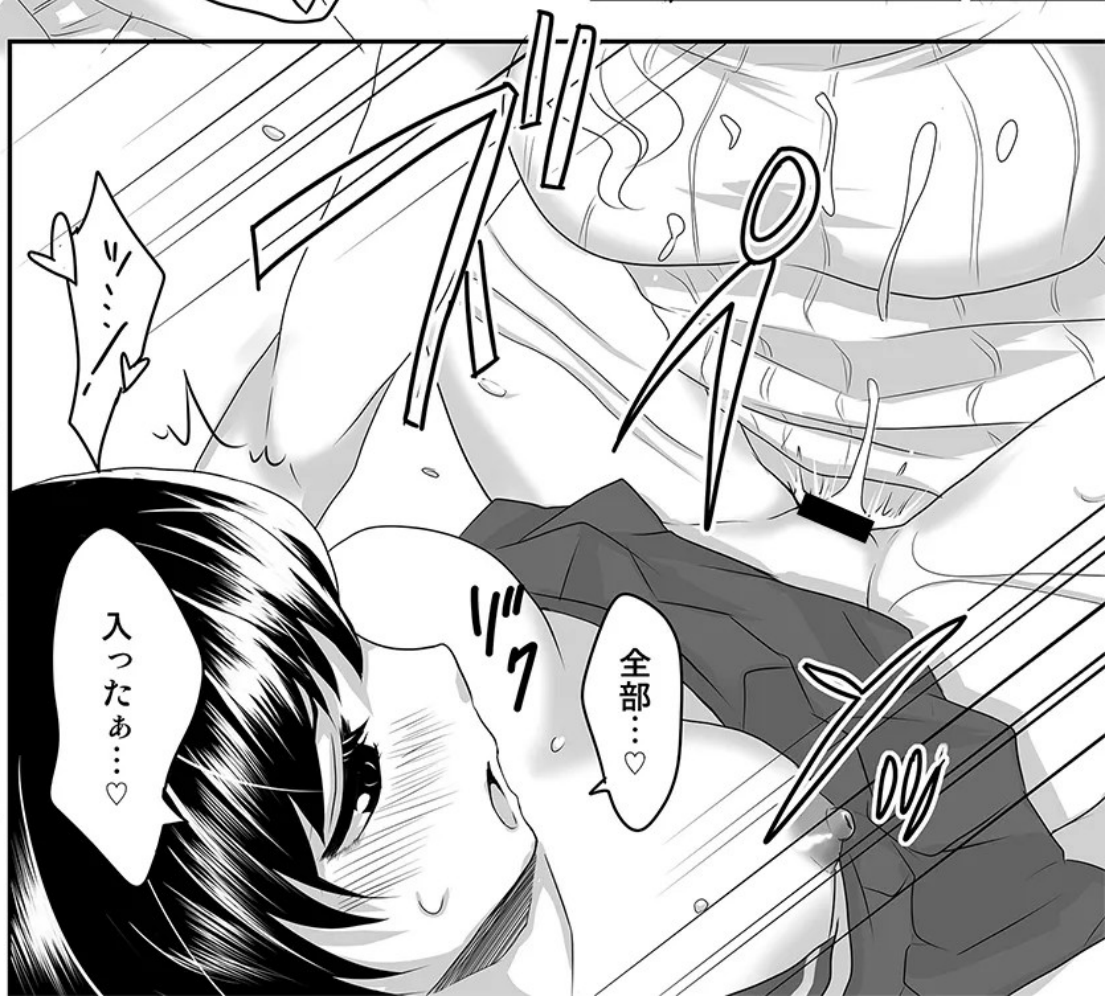
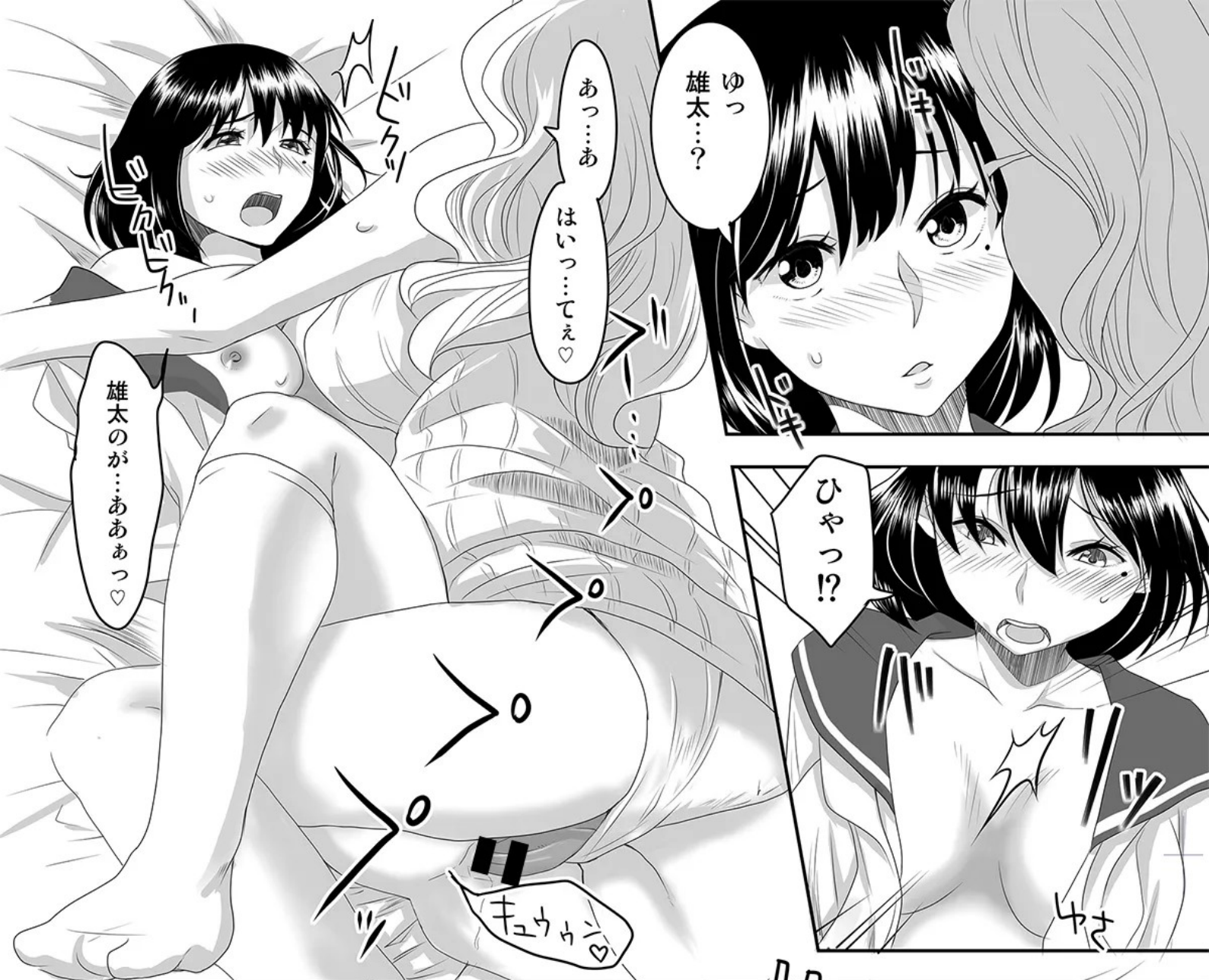












んああっ♡
雄太あっ♡

感…じるの

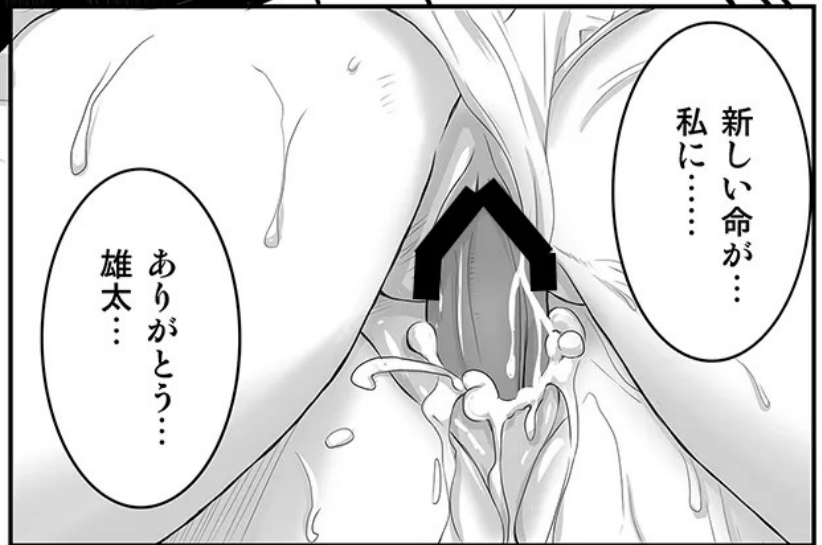
私の子宮が
雄太の精子欲しいって
待ち焦がれてるの♡

出すときは…

はあ…はあ…

一番奥に押し付け
ながら出してえっ♡

出る…
精液出ちゃう…っ！



今日パパ様が
お屋敷から出て
いらっしゃるのですか？

羽化から
お目覚めになったパパ様に
早くお会いしたいですっ

そうですよ
もうすぐですからね

天狐様に転生されたパパは
新しい知識と記憶を持たれ
私たちを導いてくださるわ

でも昔の事は忘れて
しまつてらっしゃるから
皆の事が分かるかな？

あっ！

おお：愛しい
我が子たちよ

元気にしておったか？

